

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	研究科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホクシン ツルカガクエン 学校法人 鶴岡学園									
フリガナ大学の名称	ホッカイドブツンキョウガクイフクガクイン 北海道文教大学大学院 (Graduate School, Hokkaido Bunkyo University)									
大学本部の位置	北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1									
大学の目的	<p>本学は、教育基本法及び建学の精神に則り、豊かな人間性を涵養するため幅広い知識を授けるとともに、理論と実践にわたり深く学術の教育と研究を行い、国際社会の一員として、世界の平和と人類の進歩に貢献しうる人材の育成を目的とする。</p>									
新設学部等の目的	<p>長寿で豊かな未来社会を拓くため、リハビリテーション関連領域において障害の予防や障害のある人の社会参加及び地域生活を支援するため、高い専門性と優れた実践力を持った高度専門職業人を養成する</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	リハビリテーション科学研究科 [Graduate School of Rehabilitation Science]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1		
	リハビリテーション科学専攻 [Division of Rehabilitation Science]	2	4	—	8	修士 (リハビリテーション科学)	平成29年4月 第1年次			
	計		4	—	8					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)										
		こども発達学研究科こども発達学専攻 (M) (4) (平成28年3月認可申請)								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻	15 科目	9 科目	0 科目	24 科目	30 単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員	任等
				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻 (修士課程)	8 (8)	2 (2)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	8 (8)	
		こども発達学研究科こども発達学専攻 (修士課程)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	
		計	8 (8)	0 (2)	3 (3)	1 (1)	12 (14)	0 (0)	— —	
	既設分	グローバルコミュニケーション研究科言語文化コミュニケーション専攻 (修士課程)	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	
		健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻 (修士課程)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	3 (3)	
計		10 (10)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	— —		
合計			18 (18)	3 (5)	5 (5)	1 (1)	27 (29)	0 (0)	— —	

【基礎となる学部】人間科学部
理学療法学科及び作業療法学科
14条特例の実施

平成28年3月認可申請

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		47 人 (47)	2 人 (2)	49 人 (49)					
	技 術 職 員		1 (1)	1 (1)	2 (2)					
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)	0 (0)	5 (5)					
	そ の 他 の 職 員		3 (3)	12 (12)	15 (15)					
	計		56 (56)	15 (15)	71 (71)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	71,900.00 m ²	0 m ²	0 m ²	71,900.00 m ²					
	運 動 場 用 地	12,040.00 m ²	0 m ²	0 m ²	12,040.00 m ²					
	小 計	83,940.00 m ²	0 m ²	0 m ²	83,940.00 m ²					
	そ の 他	13,192.00 m ²	0 m ²	0 m ²	13,192.00 m ²					
	合 計	97,132.00 m ²	0 m ²	0 m ²	97,132.00 m ²					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計						
	31,954.25 m ² (31,954.25 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	31,954.25 m ² (31,954.25 m ²)						
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	39 室	12 室	25 室	3 室 (補助職員 0人)	1 室 (補助職員 0人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数						
	リハビリテーション科学研究科 リハビリテーション科学専攻			13 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での 共用分 図書183,000 〔20,300〕 学術雑誌240 〔56〕 電子ジャーナル 4,100〔2,380〕 視聴覚 6,300 電子書籍 250		
	リハビリテーション科学研究科	16,000〔400〕 (15,000〔320〕)	47〔10〕 (47〔10〕)	1,500〔300〕 (1,500〔300〕)	315 (265)	8,853 (8,853)	149 (149)			
	計	16,000〔400〕 (15,000〔320〕)	47〔10〕 (47〔10〕)	1,500〔300〕 (1,500〔300〕)	315 (265)	8,853 (8,853)	149 (149)			
図書館	面積	閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数						
	1,998 m ²	234 席		150,000 冊						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体				
	2,415 m ²	野球場 1面		テニスコート 2 面						
経 費 の 見 積 及 び 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	申請研究科全体
		共同研究費等		10,000千円	10,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	大学全体
		図書購入費	4,400千円	300千円	400千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	申請研究科全体
	設備購入費	58,491千円	1,000千円	1,200千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コストを含む）を含む	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	1,000千円	800千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			学生納付金以外には、資産運用収入、手数料収入、寄付金収入等を充当する。							

大学等の名称	北海道文教大学								所在地	
	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
既設大学等の状況	大学院 グローバルコミュニケーション研究科 言語文化コミュニケーション専攻	2	5	—	10	修士(言語文化コミュニケーション)	0.70	平成15年度	北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1 同上 同上 同上	
	健康栄養科学研究科 健康栄養科学専攻	2	4	—	8	修士(健康栄養科学)	1.00	平成27年度		
	外国語学部 国際言語学科	4	100	—	400	学士(外国語)	0.72	平成22年度		
	人間科学部 健康栄養学科	4	150	—	600	学士(健康栄養学)	1.06	平成15年度		
	理学療法学科	4	80	—	320	学士(理学療法)	1.26	平成18年度		
	作業療法学科	4	40	—	160	学士(作業療法)	1.21	平成19年度		
	看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.15	平成20年度		
	こども発達学科	4	100	—	380	学士(こども発達学)	1.16	平成22年度		
	附属施設の概要	該当なし								

平成26年度入学定員増(20人)

学校法人鶴岡学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
北海道文教大学					北海道文教大学				
外国語学部					外国語学部				
国際言語学科	100	—	400		国際言語学科	100	—	400	
人間科学部					人間科学部				
健康栄養学科	150	—	600		健康栄養学科	150	—	600	
理学療法学科	80	—	320	→	理学療法学科	80	—	320	
作業療法学科	40	—	160		作業療法学科	40	—	160	
看護学科	80	—	320		看護学科	80	—	320	
こども発達学科	100	—	400		こども発達学科	100	—	400	
計	550	—	2,200		計	550	—	2,200	
北海道文教大学大学院					北海道文教大学大学院				
グローバルコミュニケーション研究科					グローバルコミュニケーション研究科				
言語文化コミュニケーション専攻	5	—	10	→	言語文化コミュニケーション専攻	5	—	10	
健康栄養科学研究科					健康栄養科学研究科				
健康栄養科学専攻	4	—	8		健康栄養科学専攻	4	—	8	
計	9	—	18		<u>リハビリテーション科学研究科</u>				研究科の設置 (認可申請)
					<u>リハビリテーション科学専攻</u>	4	—	8	
					<u>こども発達学研究科</u>				研究科の設置 (認可申請)
					<u>こども発達学専攻</u>	4	—	8	
					計	17	—	34	

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要															
(リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単 位 数			授 業 形 態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
基礎科目	リハビリテーション科学特論	1前	2			○			5		1			兼1	オムニバス
	身体機能解析学特論	1前	2			○			1	1					オムニバス
	生活支援学特論	1前		2		○				1					
	公衆衛生学特論	1前		2		○								兼1	
	身体機能解析学演習	1後	2				○		1	1					オムニバス
	プレゼンテーション技法	2前		2		○			1						
	保健福祉政策論	2前	2			○								兼3	オムニバス
	医療統計学特論	2前		2		○								兼1	
	リハビリテーション管理学特論	2前		2		○								兼1	
小計 (9科目)	—	—	8	10	0				6	1	1	0	0	兼7	
専 門 科 目	生理学分野	病態生理学特論	1前		2		○		1						
		病態生理学特論演習	1後		2			○	1						
		神経生理学特論	1前		2		○		1						
		神経生理学特論演習	1後		2			○	1			1			
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0			2	0	0	1	0	兼0	
臨 床 応 用 分 野	運動器障害学特論	1前		2		○			1						
	運動器障害学特論演習	1後		2			○		2		1			兼1	オムニバス・共同
	神経障害学特論	1前		2		○			2	1	1				オムニバス
	神経障害学特論演習	1後		2			○			1	1				オムニバス
	高齢者リハビリテーション学特論	1前		2		○			1						
	高齢者リハビリテーション学特論演習	1後		2			○		1						
小計 (6科目)	—	—	0	12	0			5	1	2	0	0	兼1		
健 康 増 進 分 野	ヘルスプロモーション学特論	1前		2		○			1						
	ヘルスプロモーション学特論演習	1後		2			○		1						
	メンタルヘルス学特論	1前		2		○			1						
	メンタルヘルス学特論演習	1後		2			○		2						オムニバス・共同
	小計 (4科目)	—	—	0	8	0			3	0	0	0	0	兼0	
研 究 指 導	リハビリテーション科学特別研究	1~2通	8	0	0			○	6	2	3	1	0		共同
	小計 (1科目)	—	8	0	0				6	2	3	1	0	兼0	
合計 (24科目)		—	16	26	0				8	2	3	1	0	兼8	
学位又は称号		修士 (リハビリテーション科学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
必修16単位、基礎科目及び専門科目の生理学分野科目・臨床応用分野科目・健康増進分野科目の選択科目から14単位以上を修得して合計30単位以上修得し、修士論文の提出及び最終試験に合格すること。なお、専門科目では、各分野に応じて、指導教員の担当する特論及び特論演習の2科目4単位を選択必修とする。								1 学年の学期区分				2期			
								1 学期の授業期間				15週			
								1 時限の授業時間				90分			

基礎となる学部の教育課程

別記様式第2号（その2の1）

教 育 課 程 等 の 概 要																
(人間科学部 理学療法学科)																
科 区	目 分	授業科目の名称	配当 年次	単 位 数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 養 科 目	人間と文化	文章表現	1前		2		○								兼1	
		心理学概論	1前		2		○								兼1	
		食生活論	2前		2		○								兼1	
		人間と住居	2前		2		○								兼1	
		総合教養講座	1前	2			○								兼1	
	小 計 (5科目)		-		2	8		-			3					オムニバス
	社会と 制度	日本国憲法	1前		2		○									兼1
		現代社会と福祉	1後		2		○									兼1
		現代社会とキャリアプラン	3後		2		○				1					オムニバス
		小 計 (3科目)		-		6		-				1				
	自然と科学	生命科学	1前		2		○									兼1
		情報処理Ⅰ	1前		1				○		1					
		情報処理Ⅱ	1後		1				○		1					
		統計の基礎	1後		2		○									兼1
		物理学	1前		2		○				1					
		基礎化学	2前		2		○									兼1
	小計 (6科目)		-		10		-				1					兼3
	外国語	英語Ⅰ	1前		1				○							兼1
		英語Ⅱ	1後		1				○							兼1
		英語Ⅲ	2前		1				○							兼1
		中国語Ⅰ	1前		1				○							兼1
		中国語Ⅱ	1後		1				○							兼1
		ロシア語Ⅰ	1前		1				○							兼1
ロシア語Ⅱ		1後		1				○							兼1	
小 計 (7科目)		-		7		-									兼4	
スポーツ と健康	生涯スポーツⅠ	1前		1				○							兼1	
	生涯スポーツⅡ	1後		1				○							兼2	
	小 計 (2科目)		-		2		-									兼2
総合領域	海外・研修Ⅰ	-		1				○								
	海外・研修Ⅱ	-		2				○								
	海外・研修Ⅲ	-		1				○								
	海外・研修Ⅳ	-		2				○								
	小 計 (4科目)		-		6		-									
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び 心身の発達	人間発達学	1後	2				○							兼1	
		解剖学Ⅰ	1前	2			○			1	1				オムニバス	
		解剖学Ⅱ	1後	1					○		1	1				
		生理学Ⅰ	1後	2			○			1						
		生理学Ⅱ	2前	1			○			1						
		解剖学実習	2前	2						1	1	1				オムニバス ・共同
		生理学実習	2前	1						2			1			共同
		運動学Ⅰ	1後	2			○						1			兼1
		運動学Ⅱ	2前	2			○			1		1				オムニバス ・共同
		運動学実習	2後	1						1		1				オムニバス
		リハビリテーション工学	1後	1			○			1						兼2
小 計 (11科目)		-		17		-			5	2	1	2			兼5	

科 区	目 分	授業科目の名称	配当 年次	単 位 数			授業形態			専任教員等の配置					備 考			
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	2後	2			○			1								
		内科学	2前	2			○			1								
		整形外科	2後	2			○			1								
		神経内科学	2後	2			○			1								
		小児科学	2前	1			○									兼1		
		精神医学Ⅰ	1後	2			○									兼1		
		精神医学Ⅱ	2前		2		○									兼1		
		リハビリテーション医学	1後	1			○			1						兼1	オムニバス	
		老年医学	2後	1			○			1						兼2	オムニバス	
		臨床心理学	2後	1			○									兼1		
		臨床栄養学	2前		1		○									兼1		
		薬理学	3後		1		○									兼1		
		救急医学	3後	1			○									兼1		
		言語障害治療学	2後	1			○									兼1		
	小 計 (14科目)	-	16	4			-		5						兼9			
専門基礎科目	保健医療福祉と リハビリテー ションの理念	医学概論	1前	1			○			1								
		リハビリテーション概論	1前	1			○									兼2	オムニバス	
		公衆衛生学	1前		1		○									兼1		
		統計と社会調査法	3後	2			○									兼1		
		チーム医療概論	3後	1			○			1						兼3	オムニバス	
	小 計 (5科目)	-	5	1			-		2						兼6			
専門科目	基礎理 学療 法学	理学療法概論	1前	2			○			1								
		理学療法管理学	3後	1			○			1	1						オムニバス	
		運動生理学	2後	1			○			1								
		病態運動学	2後	1			○				1						共同	
		機能解剖学実習	1後	1					○		1		1				共同	
		理学療法研究法	3後	1			○			1							共同	
		理学療法研究セミナー	3後	1					○	10	4	1	3				共同	
		理学療法研究Ⅰ	4前	1					○	11	4	1	3				共同	
		理学療法研究Ⅱ	4後	1					○	11	4	1	3				共同	
		医療統計学	3前	1				○								兼1		
		小 計 (10科目)	-	11				-		11	4	1	3			兼1		
	専門科目	理 学療 法 評 価 学	理学療法評価学	1後	2			○						2				オムニバス
			理学療法評価学実習Ⅰ	2前	1									2				共同
			理学療法評価学実習Ⅱ	2後	1						1			1				共同
高次脳機能障害学			3前	1			○									兼1		
			小 計 (4科目)	-	5				-		1			2			兼1	
専門科目	理 学療 法 治 療 学	物理療法学	2後	2			○			1								
		物理療法学実習	3前	1					○		1		1				共同	
		基礎運動療法学	2後	1			○			1								
		義肢装具学	3前	2			○			1								
		義肢装具学実習	3後	1					○	1								
		運動器障害理学療法学	3前	2			○			2							オムニバス	
		運動器障害理学療法学実習	3前	1					○	2							オムニバス	
		神経障害理学療法学	3後	2			○				1					兼1	オムニバス	
		神経障害理学療法学実習	3後	1					○		1					兼1	オムニバス ・一部共同	
		内部障害理学療法学	3前	2			○				2							オムニバス
		内部障害理学療法学実習	3前	1					○		2							オムニバス
		発達障害理学療法学	3後	2			○			1								
		発達障害理学療法学実習	3後	1					○	1								
		日常生活活動学	3後	1			○			1								
日常生活活動学実習	3前	1					○	1	1							オムニバス		
	理学療法総合セミナー	4後	1					○	11	4	1	3				共同		

科 目 区 分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	理学療法技術セミナーⅠ	3後	1				○		1		1			共同 兼1 オムニバス 兼2	
	理学療法技術セミナーⅡ	3後		1			○		1						
	理学療法技術セミナーⅢ	4後		1			○		1						
	小 計 (19科目)	-	23	2			-		11	4	1	3			
専 門 科 目	療 法 学 地 域 理 学 学	生活環境学	2前	1			○		1						
		高齢者理学療法学	3前	1			○				1				
		地域理学療法学	3前	1			○		1						
		地域理学療法学演習	3後	1				○	1						
	小 計 (4科目)	-	4				-		1			1			
	臨 床 実 習	見学実習	1後	1					○	1			1		共同
		評価実習Ⅰ	2後	2					○		1		1		共同
		評価実習Ⅱ	3後	3					○	1			1		共同
		総合臨床実習Ⅰ	4前	6					○		1		1		共同
		総合臨床実習Ⅱ	4前	6					○	1			1		共同
小 計 (5科目)	-	18					-	11	4	1	3				
合 計 (99科目)		-	101	46			-		11	4	1	3		兼32	
学位又は称号		学士 (理学療法学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
本学に4年以上在学し、必修科目101単位、選択科目23単位(教養科目の選択科目12単位を含む)、合計124単位以上を修得すること。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(人間科学部 作業療法学科)																	
科 区	目 分	授業科目の名称	配当 年次	単 位 数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
教 養 科 目	人間と文化	総合教養講座	1前	2			○			1					兼3	オムニバス	
		文章表現	1前		2			○							兼1		
		心理学概論	1前		2			○							兼1		
		食生活論	1前		2			○							兼1		
		人間と住居	1前		2			○							兼1		
		小 計 (5科目)	—		2	8			—	1						兼7	
	社会と 制度	日本国憲法	1前		2			○								兼1	オムニバス
		現代社会と福祉	1後		2			○					1			兼1	
		現代社会とキャリアプラン	2後		2			○								兼1	
		小 計 (3科目)	—			6			—			1				兼3	
	自然と科学	生命科学	1前		2			○								兼1	
		物理学	1前		2			○								兼1	
		基礎化学	1前		2			○								兼1	
		情報処理Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		情報処理Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		統計の基礎	1後		2			○								兼1	
		小 計 (6科目)	—			10			—							兼5	
	外国語	英語Ⅰ	1前		1				○							兼1	
		英語Ⅱ	1後		1				○							兼1	
		英語Ⅲ	2前		1				○							兼1	
		中国語Ⅰ	1前		1				○							兼1	
中国語Ⅱ		1後		1				○							兼1		
ロシア語Ⅰ		1前		1				○							兼1		
ロシア語Ⅱ		1後		1				○							兼1		
	小 計 (7科目)	—			7			—							兼5		
スポーツ と健康	生涯スポーツⅠ	1前		1				○							兼1		
	生涯スポーツⅡ	1後		1				○							兼1		
	小 計 (2科目)	—			2			—							兼2		
総合領域	海外・研修Ⅰ	—		1				○									
	海外・研修Ⅱ	—		2				○									
	海外・研修Ⅲ	—		1				○									
	海外・研修Ⅳ	—		2				○									
	小 計 (4科目)	—			6			—									
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能及び 心身の発達	人間発達学	1前	2			○								兼1	オムニバス	
		解剖学Ⅰ	1前	2			○								兼2		
		解剖学Ⅱ	1後	1				○							兼1		
		解剖学Ⅲ	3前	1				○		○							
		生理学Ⅰ	1後	2				○							兼1		
		生理学Ⅱ	2前	1				○							兼1		
		解剖学実習	2前	1						○		1	1	2	兼2		
		生理学実習	2前	1							○			2	兼2		
		運動学Ⅰ	1後	2				○							兼1		
		運動学Ⅱ	2前	2				○					1		兼2		
		運動学実習	2後	1						○		1			兼2		
		リハビリテーション工学	1後	1				○							兼3		
	小 計 (12科目)	—		17				—	1	1	1	2		兼9			

科 区	目 分	授業科目の名称	配当 年次	単 位 数			授業形態			専任教員等の配置					備 考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門基礎科目	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	病理学	2後	2			○									兼1	
		内科学	2前	2			○									兼1	
		整形外科	2後	2			○									兼1	
		神経内科学	2後	2			○									兼1	
		小児科学	2前	1			○									兼1	
		精神医学Ⅰ	1後	2			○			1							
		精神医学Ⅱ	2前	2			○			1							
		リハビリテーション医学	1後	1			○			1						兼1	
		老年医学	2後	1			○			1						兼2	
		臨床心理学	2後		1		○									兼1	
		臨床栄養学	2前		1		○									兼1	
		薬理学	3後	1			○									兼1	
		救急医学	3後	1			○									兼1	
		言語障害治療学	2後	1			○									兼1	
	小 計 (14科目)	—	18	2			—		2						兼12		
専門基礎科目	保健医療福祉と リハビリテーションの 理念	医学概論	1前	1			○									兼1	
		リハビリテーション概論	1前	1			○			1						兼1	
		公衆衛生学	1前		1		○			1							
		統計と社会調査法	2後		2		○									兼1	
		チーム医療概論	3後	1			○			1						兼3	
	小 計 (5科目)	—	3	3			—		2						兼6		
専門科目	基礎 作業 療法 学	作業療法概論Ⅰ	1前	1				○									
		作業療法概論Ⅱ	1後	1				○		1	1					オムニバス	
		基礎作業学Ⅰ	1後	1			○			1							
		基礎作業学Ⅱ	2前	1			○			1							
		基礎作業学実習Ⅰ	2後	1					○		1		2			兼1	
		基礎作業学実習Ⅱ	3前	1					○		2	2		2		兼1	
		作業療法研究法	3前	1					○		2					オムニバス	
		作業療法研究Ⅰ	3後	1					○		4	2	2	2		共同	
		作業療法研究Ⅱ	4前	1					○		4	2	2	2		共同	
		小 計 (9科目)	—	9				—		4	2	2	2			兼2	
	専門科目	作業 療法 学 評 価 学	作業療法評価学Ⅰ	2前	1			○					1				
			作業療法評価学Ⅱ	2前	1			○			1						オムニバス
			作業療法評価学演習	2前	1					○		1	1				オムニバス
			作業療法評価学実習Ⅰ	2後	1					○		1	1	2	1		オムニバス
作業療法評価学実習Ⅱ			3前	1					○		1	1	2	1		オムニバス	
	小 計 (5科目)	—	5				—		2	2	2	2					
専門科目	作 業 治 療 学	身体障害作業療法治療学Ⅰ	2前	1			○				1					兼1	
		身体障害作業療法治療学Ⅱ	2後	1			○			1							
		身体障害作業療法治療学Ⅲ	2後	1			○				1					オムニバス	
		身体障害作業療法治療学演習	3前	1					○		2		1				
		身体障害作業療法治療学特論	3前		1				○				1				
		身体障害作業療法治療学実習	3後	1					○		1	1	2	2		兼1	
		高次脳神経障害作業療法治療学	2後	2					○					1			
		高次脳神経障害作業療法治療学演習	3前	1					○					1			
		発達障害作業療法治療学	2後	2					○								兼1
		発達障害作業療法治療学演習	3前	1					○								兼1
高齢期作業療法治療学	2後	2					○				1						
高齢期作業療法治療学演習	3前	1					○				1	1			オムニバス		

科 区 目 分	授業科目の名称	配当 年次	単 位 数			授業形態			専任教員等の配置					備 考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 科 目	作 業 治 療 学	高齢期作業療法治療学特論	3後	1		○									オムニバス オムニバス 兼1 オムニバス 共同 共同
		医療心理学	2後	1		○				1					
		精神障害作業療法治療学	2前	2		○				1					
		精神障害作業療法治療学演習	2後	1			○			1	1				
		精神障害作業療法治療学特論	3前		1		○			1					
		臨床運動学	3後	1			○				1				
		日常生活適応学演習	3後	1				○				2			
		作業療法管理運営・法規	3後	1			○				1				
		作業療法理論	2前	1			○			1					
		作業療法総合セミナーⅠ	4後	1				○		4	2	2	2		
	作業療法総合セミナーⅡ	4後	1				○		4	2	2	2			
	小 計 (23科目)	-	24	3			-		4	2	2	2		兼3	
	地 域 作 業 療 法 学	地域作業療法学	2前	1			○				1				オムニバス 共同
		地域作業療法学演習	3前	1				○			1	1			
地域作業療法学実習		2後	1					○	1	1					
産業作業療法学		3前	1			○			1						
小 計 (4科目)	-	4				-		1	1		1				
臨 床 実 習	見学実習	1後	1					○		1		1		共同 共同 共同 共同	
	評価実習	3後	3					○	1		1				
	総合臨床実習Ⅰ	4前	8					○	1		1				
	総合臨床実習Ⅱ	4後	8					○	1		1				
小 計 (4科目)	-	20	0			-		3	1	2	2				
合 計 (103科目)		-	102	47			-		4	2	2	2		兼45	
学位又は称号		学士 (作業療法学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (リハビリテーション関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
本学に4年以上在学し、必修科目102単位、選択科目22単位、合計124単位以上を修得すること。								1学年の学期区分			2期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要			
(ヒリハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	リハビリテーション科学特論	<p>(概要)</p> <p>リハビリテーション医療の中核をなす理学療法や作業療法においては近年 EBM (evidence based medicine) が強く求められている。このためリハビリテーション医療分野における専門基礎分野、臨床応用分野及び健康増進分野の最新動向を学習し、リハビリテーション医療や福祉分野における高度専門職業人としての必須の知識と研究方法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1 木村 一志/3回)</p> <p>リハビリテーション科学分野における研究法概説、神経生理学分野に最近の研究及び今後の研究</p> <p>(2 池田 仁/2回)</p> <p>病態生理学分野における最近の研究及び今後の研究課題</p> <p>(3 池田 官司/2回)</p> <p>メンタルヘルス学分野における最近の研究及び今後の課題</p> <p>(5 野田 美保子/2回)</p> <p>ヘルスプロモーション学分野における最近の研究及び今後の課題</p> <p>神経障害学分野における最近の研究及び今後の課題</p> <p>(7 湯浅 孝男/2回)</p> <p>高齢者リハビリテーション学分野における最近の研究及び今後の課題</p> <p>(⑥白戸 力弥/2回)</p> <p>高齢者リハビリテーション学分野における最近の研究及び今後の課題</p> <p>(⑧牧野 均/2回)</p> <p>神経障害学分野における最近の研究及び今後の課題</p>	オムニバス方式
	身体機能解析学特論	<p>(概要)</p> <p>ヒトの運動及び身体機能の解析について、工学的、運動学的な手法を学び、それぞれの特徴を捉える。さらに四肢及び体幹の運動や姿勢制御を含めた身体機能について理解を深め、正常と異常の差異を明らかにする。得られた知見からリハビリテーション領域における臨床応用の基礎を構築する。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(④ 石田 裕二/7回)</p> <p>身体機能解析学概論、基礎バイオメカニクス、中枢神経系の四肢及び体幹の運動解析と評価法等</p> <p>(9 田邊 芳恵/8回)</p> <p>身体機能解析学概論、運動器系の四肢及び体幹の運動機能解析、運動器系外傷の予防と運動機能解析等</p>	オムニバス方式
	生活支援学特論	<p>(概要)</p> <p>障害当事者の生活において、「職業」はリカバリーにかかわる重要な作業である。本特論では、障害当事者に対する生活支援について職業リハビリテーションの側面から学ぶ。特に、近年注目される精神障害、発達障害等の多様な特性を持つ障害当事者の職業リハビリテーションの現状を理解し、課題について考察する。</p>	
	公衆衛生学特論	<p>(概要)</p> <p>公衆衛生学は健康にとって有害な社会環境要因、ライフスタイルを変化させることにより、人々の健康と生活の質を向上させ疾病を予防することを大きな目標としている。従って、本講義では広く人の健康に関わる社会環境要因の役割と健康や疾病関係について学ぶとともに、国や地域など集団レベルにおける健康上の課題把握と健康障害の予防、健康増進のために必要な知識と考え方、方法論について学習する。特に人々の健康づくりにおいて身体活動・運動が果たす役割とその意義について学び、運動疫学の観点から問題解決の提案を行う。</p>	

	身体機能解析学演習	<p>(概要)</p> <p>身体機能解析学特論で学んだ知識を基に、工学的、運動学的な解析手法を実際に行い、それぞれの特徴を捉える。さらに任意の課題動作において健康人に対する解析や文献的考察を行い、正常な動作と障害された動作の差異について考察する。(オムニバス全30回)</p> <p>(④ 石田 裕二/16回)</p> <p>身体機能解析学概論、基礎バイオメカニクス、中枢神経系の四肢及び体幹の運動解析と評価法等</p> <p>(9 田邊 芳恵/14回)</p> <p>身体機能解析学概論、運動器系の四肢及び体幹の運動機能解析、運動器系外傷の予防と運動機能解析等</p>	オムニバス方式
	プレゼンテーション技法	<p>(概要)</p> <p>自己の研究について専門外の人にも判るよう、写真、図、表等を用いて視覚的効果のあるプレゼンテーション方法を学修する。また、日本語及び英語によるプレゼンテーションについても経験する。</p>	
	保健福祉政策論	<p>(概要)</p> <p>わが国の保健福祉政策は、高齢者人口の急増による年金・福祉・医療・介護等の需要が増大する中、今後どのようなサービスを維持するかが大きな課題となっている。この授業では、わが国の社会保障制度改革の方向性や、諸外国の医療・福祉事情、そしてわが国で今後予定されている「地域包括ケアシステム」と、地域リハビリテーションに課題等について理解を深める。</p> <p>(オムニバス/全15回)</p> <p>(16 草野 真暢/6回)</p> <p>日本における高齢者人口の急増がもたらす年金・福祉・医療・介護等の諸問題について、その現状と解決策について考察する。</p> <p>(17 黒沢 秀樹/3回)</p> <p>諸外国の医療・福祉事情の現状と日本の現状の違いについて解説し、今後の日本の医療・福祉について考察する。</p> <p>(18 齋藤 正美/6回)</p> <p>日本の保健福祉政策において今後どのようなサービスが必要なのかを考え、地域包括ケアシステムや地域リハビリテーションの課題等について考察する。</p>	オムニバス方式
	医療統計学特論	<p>(概要)</p> <p>研究で得られた事象に対してある判断を下すときには、統計学の理論を用いた普遍的な判断基準が必要不可欠である。本講義では統計学の主要概念、基礎理論、医療系科学領域の研究に用いられる統計解析方法について学習する。また、研究課題に適した統計解析方法を選択し、統計解析ソフトを駆使して分析し、結果を正しく解釈する方法を学習する。</p>	
	リハビリテーション管理学特論	<p>(概要)</p> <p>患者に安全・安心な医療を提供するには、経営の合理性と臨床的な合理性の両立が必要である。このため昨今、医療現場における経営の視点が重要視され、職種に関わらず医療に携わる者は、それぞれの立場で現場の運営を効率的かつ円滑に遂行することが求められている。また、医療の質向上には臨床研究が不可欠であり、研究倫理に関する基本的理解が重要である。そこで効率的な組織運営に不可欠なマネジメントの視点により、医療の質を高めるにはどうしたら良いか、個と集団の関わり、患者中心のチーム医療の重要性、研究者に求められる基本的研究倫理教育等について学ぶ。</p>	
専 門 科 目	病態生理学特論	<p>(概要)</p> <p>リハビリテーション医学と関連の深い関節をはじめとする運動器やそれを支配する脊髄・末梢神経系及び心循環器系や呼吸器系について、それぞれを構成する細胞・組織の発生からその形態的・機能的特徴について、分子・細胞レベルから組織・臓器レベルまでを学び、各臓器への基礎医学的な理解を深め、それぞれの臓器での各種疾患の病因や病態生理を学習する。さらに機能回復に向けた治療の現状や再生について基礎医学的観点から学習する。</p>	
	病態生理学特論演習	<p>(概要)</p> <p>疾患の病態を解明するための研究手法について、遺伝子・細胞・組織・臓器・疾患モデル動物による個体レベルに至るまで幅広く学習し、それぞれの</p>	

専 門 科 目	生 理 学 分 野		研究手法の目的や理論を学ぶとともに、実際の実験技術を学ぶ	
		神経生理学特論	(概要) 脳をはじめとする神経細胞による情報伝達・情報処理機構とその生理機構について、分子・細胞レベルから組織・臓器・個体レベルに至るまで幅広く理解し、リハビリテーションによる神経機能回復について神経科学的観点から学修する。	
	神経生理学特論演習	(概要) 脳をはじめとする神経細胞による情報伝達・情報処理機構とその生理機能を解明する研究手法について、分子・細胞レベルから組織・臓器・個体レベルに至るまで幅広く学習し、その実験技術を修得する。 (オムニバス/全30回) (1 木村 一志/16回) 遺伝子解析 (PCR 法、マイクロアレイ法) 神経細胞および神経組織の研究法 (培養、形態学的解析、) (13 矢口 智恵/14回) 個体レベルの研究法 (誘発筋電図・動作筋電図・視覚誘発電位・感覚誘発電位・経頭蓋磁気刺激法など)	オムニバス方式	
	運動器障害学特論	(概要) 運動器障害に対するリハビリテーション治療の臨床・研究の現状を理解し、今後の課題について学修する。 関節、骨周辺組織の特性及び外傷の治癒課程について理解する。 骨運動と関節運動の正常、異常について理解する。関節の骨受容覚及び痛覚のメカニズムについて理解する。		
	運動器障害学特論演習	(概要) ・運動器障害治療の基礎科学、評価・治療の基本概念と、それを実践するための実践的手技 (manual therapy) を修得する。 ・運動器疾患に対する基本的な臨床推論と、臨床判断の理論的背景を学修する。 ・運動器疾患に対する研究論文を系統的に分析し、治療における科学性について学修する。 (オムニバス。一部共同/30回) (11 金子 翔拓/6回) 上肢の運動器疾患に関するリハ関連の研究論文を系統的に分析し、その科学性について討議する (9 田邊 芳恵/6回) 下肢の運動器疾患に関するリハ関連の研究論文を系統的に分析し、その科学性について討議する (共同/6 宮本 重範・22 高田 雄一/18回) マニュアルセラピー (評価手技と治療手技の実践演習)、徒手療法に関する研究論文を系統的に分析し、その科学性について討議する。	オムニバス方式 ・共同	
	神経障害学特論	(概要) 神経疾患は、脳卒中、認知症など患者数が多く、従ってリハビリテーションにおいても疾患の理解が重要であることは当然である。しかしながら神経難病といわれるように、治らないという先入観があるのも事実で、最新の治療学が臨床の現場で必ずしも正しく理解されているとはいえない。そこで、近年の研究成果を踏まえ、診断、治療法に結びつく多くの知見について学び、薬物治療とともにリハビリテーションの位置づけがますます重要になっている理学療法・作業療法の現場で実践できるような知識を深める。 (オムニバス/全15回) (① 木村 一志/6回) オリエンテーション、神経系の基本的解剖生理、中枢神経系の解剖生理、末梢神経系の解剖生理、神経生理の病態生理、まとめ (これからのリハビリテーション治療に期待されるもの) (② 池田 仁/4回) 神経疾患の症候と診断学 1 および 2、神経系の検査法、筋疾患/分子遺伝学の基礎 (⑦ 西村 由香/1回)	オムニバス方式	

	<p>神経疾患の姿勢と動作その1 (④ 石田 裕二/1回)</p> <p>神経疾患の姿勢と動作その2 (/3回)</p> <p>認知症の症候・診断と検査法・治療</p>		
神経障害特論学演習	<p>(概要)</p> <p>神経疾患のなかでもとくに患者数が多く、かつ症例ごとに障害の内容が多 彩である脳卒中を中心にとりあげ、病態生理、障害の評価と運動解析、さら に機能回復に関連するメカニズムについて学ぶ。リハビリテーション分野 (理学療法・作業療法)の専門家で構成するオムニバス方式とする。 (オムニバス/全30回)</p> <p>(④ 石田 裕二/14回)</p> <p>オリエンテーション、脳卒中の検査手段と最近の治療、脳卒中の病態(急 性期・回復期・生活期)における症候と留意点、脳卒中の評価:巧緻動作を どうみるか、まとめ(今後のリハビリテーション・アプローチに期待される もの)</p> <p>(⑦ 西村 由香/12回)</p> <p>脳卒中の評価:急性期・亜急性期の画像による検討、運動障害と画像の対 比、座位姿勢の検討、立位姿勢の検討、歩行の検討など (共同/④ 石田 裕二・⑦ 西村 由香/4回)</p> <p>症例提示と評価・治療法(具体的にどうアプローチするか)</p>	オムニバス方式 ・一部共同	
高齢者リハビリテ ーション学特論	<p>(概論)</p> <p>「年齢を重ねること」の意味を医学的・心理学的・社会的側面から考察 し、高齢者の生活機能の維持・改善を支援する活動について理解を深めさせ る。高齢者の身体機能・日常生活活動に関し、多面的に評価、分析、批評が できるよう、高齢者のニーズの評価・分析の方法、高齢者の身体機能・日 常生活活動に関した多面的に評価、分析、高齢者のニーズの評価・分析、高 齢者の社会的ネットワークの評価、分析等について概説する。</p>		
高齢者リハビリテ ーション学特論演習	<p>(概論)</p> <p>高齢者の加齢変化に関する国内・外の文献の講読を通して以下の研究 方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の知能の変化に関する研究論文を分析する。 ・認知症高齢者を取り巻く社会的環境に関する文献講読を通して研究 方法を修得する。 ・高齢者のメンタルヘルスに関する研究論文を分析する。 		
健 康 増 進 分 野	ヘルスプロモーシ オン学特論	<p>(概論)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ヘルスプロモーションの意義と歴史について、世界、日本、地域の視 点から学ぶ。 ② ヘルスプロモーションの捉え方を学び、ヘルスプロモーションの現 状の問題点と今後の対応方法を学ぶ。 ③ 学生自身がヘルスプロモーションに関連するテーマを考え、それ を探求して成果を発表する。 	
	ヘルスプロモーシ オン学特論演習	<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ヘルスプロモーションに関する国外・国内の文献を分析し、現 状と問題点を把握し、その対策を検討する。 ② 学習した知識に基づいて実際にヘルスプロモーション活動を模 擬的に計画する。 ③ ヘルスプロモーションに関連する研究テーマを考え、自ら調 べて発表する。 	
	メンタルヘルス学 特論	<p>(概要)</p> <p>メンタルヘルスの保持増進・改善の方策を対象者の健康支援に役 立てることができるようになるために、メンタルヘルスの基礎を知り、 個人・集団への介入法についてその理論的背景・技法・効果判定法 などを考究することを目的とする。</p>	
	メンタルヘルス学 特論演習	<p>(概要)</p> <p>身体的・心理的・社会的なストレスは、メンタルヘルスに様々な不 調を引き</p>	オムニバス方式 ・一部共同

		<p>起こす。そのような不調を和らげるために、効果的な介入について考究することを目的とする。文献抄読などを通して、先行研究の問題点と課題を考察・討論し、具体的な実践や研究に利用できる基礎能力を養成する。</p> <p>(オムニバス/全30回)</p> <p>(3 池田 官司/12回)</p> <p>メンタルヘルス支援の対象、技法と効果判定の実際</p> <p>(10 渡辺 明日香/14回)</p> <p>ダンスセラピー・ボディワーク実践と指導法、身心健康支援に特化した各種研究法の演習</p> <p>(共同/3 池田 官司・10 渡辺 明日香/4回)</p> <p>メンタルヘルス支援・健康支援介入のための実施計画発表会(計画書についてのフィードバック・完成した計画書の模擬的实践など)</p>	
研 究 指 導	リハビリテーション科学特別研究	<p>(概要)</p> <p>リハビリテーション科学専攻領域の講義科目・演習を踏まえ、理学療法及び作業療法における実践・研究・教育を発展させる研究課題を決定し、その課題に適した研究方法を探索し、実践して論文を作成する。</p> <p>(1 木村 一志)</p> <p>脳をはじめとする神経細胞による情報伝達・情報処理機構とその生理機構を解明する研究手法について学び、理学療法や作業療法の理論的根拠につながる研究を指導する。</p> <p>(2 池田 仁)</p> <p>中枢神経疾患や運動器疾患の背景となる病理組織を研究し、理学療法や作業療法の理論的根拠につながる研究を指導する。</p> <p>(3 池田 官司)</p> <p>身体的・心理的・社会的なストレスによるメンタルヘルスに対応できる、効果的な介入の研究を指導する。</p> <p>(5 野田 美保子)</p> <p>高齢者や障害を持つ人達のヘルスプロモーションについての具体的取組みから、効果的な方法についての研究を指導する。</p> <p>(7 湯浅 孝男)</p> <p>高齢者リハビリテーションについて、特に高齢者の精神機能低下予防や生活環境整備等について、具体的手法について研究を指導する。</p> <p>(10 渡辺 明日香)</p> <p>身体的・心理的・社会的なストレスによるメンタルヘルスに対応できる、効果的な介入の研究を指導する。</p> <p>(4 石田 裕二)</p> <p>利き手交換など上肢の巧緻的運動課題に対する運動学習の転移効果について、動作解析等を用いた基礎的研究手法を指導する。</p> <p>(5 大川 浩子)</p> <p>精神障害、発達障害等の多様な特性を持つ障害当事者の職業リハビリテーションに関し、効果的な方法について研究指導する。</p> <p>(11 金子 翔拓)</p> <p>手術を必要とする幅広い年代の上肢の運動器障害に対し、効果的なリハビリテーションを推進するため、動作解析等を用いた基礎的研究手法を指導する。</p> <p>(6 白戸 力弥)</p> <p>とくに手術を必要とする上肢の障害に対し、理学療法や作業療法の理論的根拠につながる研究を指導する。</p> <p>(7 西村 由香)</p> <p>神経疾患のなかでもとくに患者数が多い脳卒中を取り上げ、理学療法や作業療法の臨床場面で生かせる評価や治療法についての研究を指導する。</p> <p>(13 矢口 智恵)</p> <p>姿勢や運動制御、及び認知処理に関する生理的機能を解明し、理学療法や作業療法の理論的根拠につながる研究を指導する。</p>	共同